

2008年度第2四半期決算説明会
主な質疑応答

Q1：ドキュメントソリューション事業の、更なるコストダウンの推進、収益の改善に向けての具体的な施策を教えてください。

A1：厳しい事業環境ではありますが、収益のさらなる改善に向け、次のような施策を実施して行きます。

①国内の営業力の強化：

機械単体の売上からソリューションビジネスへのシフトに対応。文書管理やネットワークなど最近ニーズが高まってきていることに対応します。

②ゼロックスコーポレーションとの強力なコラボレーション

③アジア/中国事業のさらなる成長の加速

④商品開発力、コスト競争力の強化：SG&Aの削減、原価率の低減

⑤人的リソースの最適配置による組織競争力の強化：

Q2：デジカメに関して、富士フイルムの課題と競合他社との差別化施策をどのように考えていますか？

A2：次のような課題があると認識しています。

①コスト競争力強化：コスト構造を徹底的に分析し、価格競争力をつけること。

②サプライチェーンマネジメント強化：商品ライフサイクルの速さに応じたサプライチェーンマネジメントの構築を図ること。

③品質・独自機能の訴求：

当社製品は高画質、手ブレ防止・顔認証機能などを備え、高品質であると自負しています。顔認証機能は他社に先掛けて開発を実施しましたし、ダイナミックレンジで撮影できる機能が搭載されています。この点について、訴求を行って行きます。

④カメラメーカーとしてのブランド力強化：

企業としてのFUJIFILMのブランド力はあると自負しておりますが、デジカメに関しても宣伝広告などのアピールを強化しブランド力を高める必要があります。

こうした課題を解決するために、デジカメを担当する電子映像事業部長を新任し、さらに生産技術をサポートするため、富士フイルムウェイ推進室も含め、全社的に事業の建て直しを図って行きます。

Q3：プレゼンテーション資料「新たな成長に向けた施策の展開」9 ページ目 2008 年度の対前年の営業利益増減分析について、8 月 28 日の下方修正発表時との違いを教えてください。

A3：為替レートが 3Q以降 ドル円で 95 円、ユーロ円で 130 円で推移した場合、8/28 発表の計画に対し約 150 億円のマイナス影響が発生します。一方、8 月時点と比べ原材料価格の異常な高騰はかなりおさまってきましたので、円高影響のある程度の分は相殺できる見込みです。原材料価格の低下でカバーしきれない数十億のマイナスインパクト分はコストダウン等の企業努力によって吸収しようとしています。

Q4：来年度の構造改革費用はどのくらい出るか？今年度よりも多くなりますか？

A4：創立 75 周年を迎える 2009 年度は、営業利益 2,500 億円の達成を目指しておりますが、昨今の厳しい状況を打開する為、色々な構造改革諸策を実施し、費用を投入していく必要があると考えています。現時点では具体的な費用額は確定していません。

以上